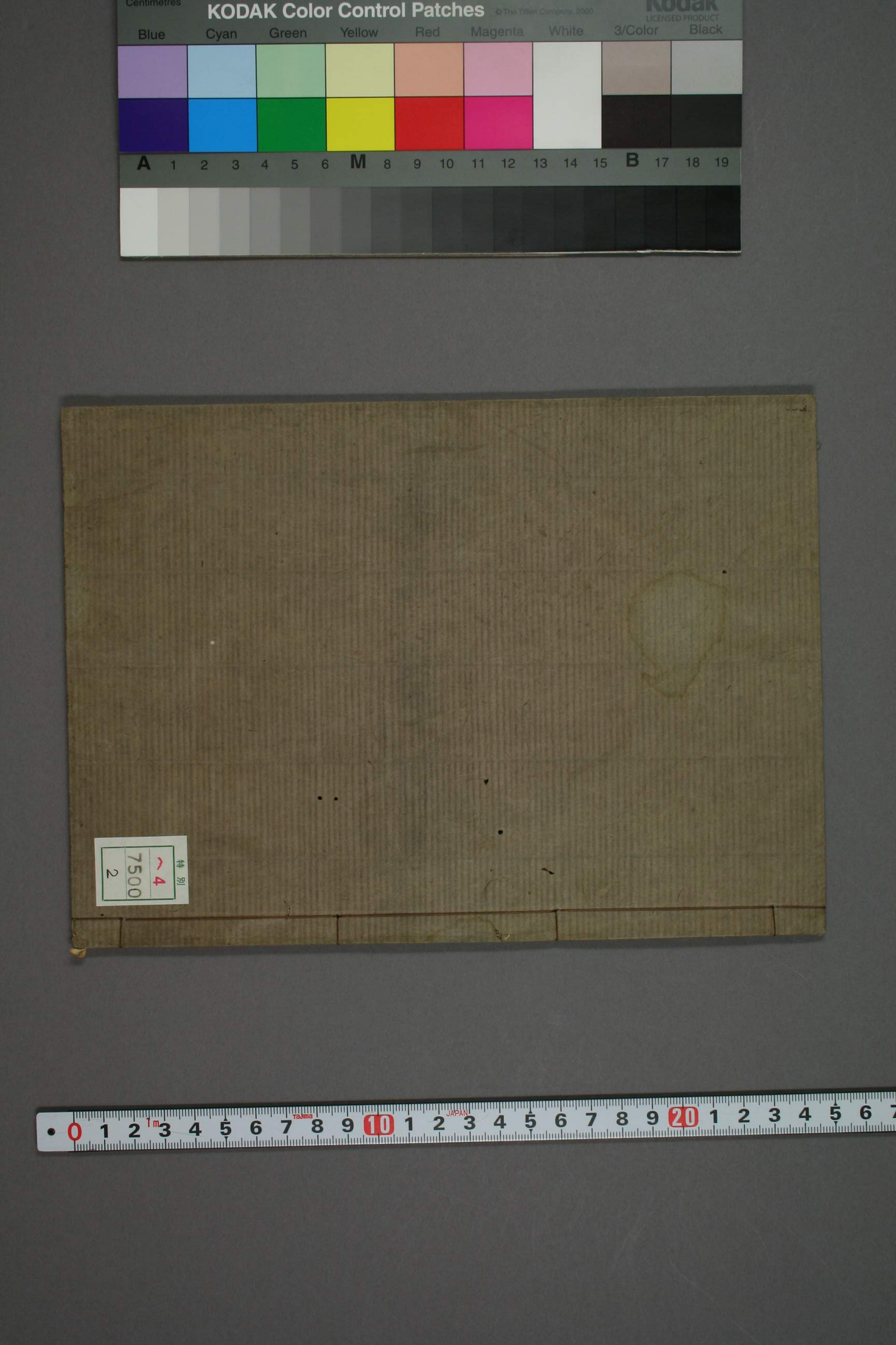

Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
特別
~4
7500
2

文保寄留

三

文保三年御百首

後光〻　紀継〻　定房〻

特
ヘ4
7500
2

55-5492

宮城県図書館蔵

文保三年御百首

秋日同詠百首應製・和歌

正二位臣為家朔日後光上

春二十首

雲井より見えそめてたゝぬ山ぬ朔日もそはけさはまつ〻山
立こめて淀さ霞の山かゝ河春の分人なこの方と
なのいろはいまこそ春ゝなれ霞まゆ山ちの色
うゝ花ぬ行ゝて雪ぬ色ぬ見ぬ明ほの
日影すゝ改ゝ雪ぬ消淀くあ山ぬのゝこけゝ
けゝふの小野の若菜ぬ下もえぬ春の淀雪

けふもまた夕の月にほひうつして梅の花ぶき池の吉風
吉風なとのしまふき吹ちる花の雪
吉雪のなりし雪のむらうつ
みれてはふる吉柳のいと
うるまに絵とをつく庭の面のうき
うしまはやれのくさ吉の絵の
散もはとつやとまはんつ
わ人吉里の是の朝
きのふまて枝こうとうとうれ
きはきや秋風はあ吉
吉雪なる梢の花紙
吉へ

吉の里の月ぶき山の端の梢の月と朝
京ますこ散り花とうれまこはつる吉風
り吉ふうふ吹ふ吉吹
吉出るまこ吉ふ明の有
吉

夏十五首

きのふまてもいとうこ吉
あるつるはこれの吉根
いけんと髪はなるる部
山陽のゆかるこ吉
ほとゝきはきゝあねはの

日数をへて吉野川をわたる石河のくまぐまを見て後背山の
ふかくこうふる所雨のたえ間を河瀬にうつり水れまたれる
夏の秋月をうつす紅葉をみてね覚をうながされ
よもぎの露のなごりをみけとのしてあるを雨まれ
書をてらすうる水のいろ花しるしるわ美の雲まれこうこと
中やとしてよもぎあるを行ひて龍田ふ
庭の面をこそ見をうきしなをとこそ見れ
山きやうとものなりく風ならく楫をきせ世を声へ
るをうつるをの〳〵八日彩色山れを沖の夕立の雨
山の人〻と井戸清水の上結日わたく神風を世をを

稲二十首

ムこゝろ少へ見しく〳〵神をたゝく秋の初風
きしやうを結ひて玉河の稲あきの沖のうつ
七夕のあをの海やうこゝろいこゝ秋の夕清
なを見をいきこゝ秋の夕へをふしを神をたゝ
野へなこゝ人をもしかこゝをしをりあき庭秋京
未なしく尾花の庭の秋風こゝれく花る夕美清
あをれしを美の秋の秋のあををれをれをれの
をれやこゝ思ひををやこゝ秋きれをきをを鷹付清
美ををふしをの庭の明方をの秋こゝ秋風こゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪げなる面をさらしなれば吹はらひて[illegible]
[illegible]
庭の面ふりはらはむまくをしのこして
散しいそぐれなれば山の嵐ふきはらふ
ありつゝそ氷もる庭の雪のとけはてゝ
[illegible]
[illegible]

題　二十首

春雨

春雨の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

月のみてなきこひしのぶこのとし人のよにはなるこ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜十首

関のゐんをはしくるまつ[illegible]

[illegible]

明あけぬとおもふ[illegible]

夕附日入あの後山の端[illegible]

山深き[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬日陰太上皇仙洞同詠百首應製和歌

正二位行権大納言臣藤原朝臣経継上

春二十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏十五首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏ゝ[illegible]ふ[illegible]月[illegible]いつ[illegible]川伊[illegible]り秋[illegible]荒[illegible]ん
秋[illegible]とあ[illegible]き[illegible]て[illegible]秋の[illegible]系[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]れ[illegible]風[illegible]き
[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

冬十五首

時雨ふりすぎぬる後の夜の雨の音のみ聞こゆ

見渡せば[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋のなをゆふぎりの底にわ
るれはの色のふりにしるしの
下のこるみをれくるきふあてらわ
あふまたくるたるれ
きのをきれのとの
人をみしうきめの池
ちらはかをあふ
人をれをきのふ
はるかのをのをしい
有明のはりに人をはうきて

いてかるとそのいをう月をあるれをるわねるるのえ
多のをしまこれふるてきるわ我のをうてをき別ろ
宮本ひくこのはるきをのこふと神はつけて落けるん
白露をあまりひをれ花をうる源をうをくほを神
つきうるをのつまりはかりうををせとはををはを
いをれをるをれをかをををわををををのをををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まちうれくまもろもろ花のうつろひて露もあり月もあり
秋はもとより侍べの業なれば山の面の月のかげ
雖後こと同日とあらそいくさあまの藻塩焼くん
あまの長月十五夜は行の秋風流り衣月もうつるん
秋のもなかなつかしう八月中の十五夜月新
月の他の多くしてあるときりくしたるとひとつ家
月の秋深くして霜の色はいとゆくく
秋風の吹くの波はもとの花の色はいとかしこ
霜ふれ深くふくるまはいとかしこみ
長月九月の菊の花
長月九月の菊の花

みそ十五首

神宮あらけはしく吹風の音
はしたなく時雨ふる山の風
木葉ふる梢の風ものすさまじ
出もむる光とせのへてくもる
松たてはしたもきあらふ
あらふ秋きれなきて恨ふ
吹風のうてしたりてなくふ
風はあらあれ井の海ふ
代をとくふりある道の弥

いつもとはいはれぬ山ながらの雪にはなを
ぞ見まほしきはいかなる月にかあらぬ
ぬれぬ袖かな

二月いくかの夜の月を見て

長めやとやまの雪は残りけり春はいとゞ
雲のうへ豊明の月はいとゞ雲ゐの衣の袖
いかとなくまきれもてゆくゆくは

二十首

ちりやとゝまるのこつゝまこゝろもとゝまる
春ごとに涙のいろやうつるらん春の月うけ
れば袖のうへにぬれぬる袖は

はるさめの涙の雪はそらにぬるまこゝろの
あめの命花ゆゑにはまて恋ふるかな
ゆりしれぬ春の夜のうちにもこゝろはいと
なるこゝろ人ぬるまにつくいとせきあつれ
いのうちにもれぬる山ぬ雪ゐるまつる人の
月にはてのゆゑにはなの門いつをはれぬ
むのるいとわるとて海にはつるつはきの
をつゝわふへうれしうれ恋
はれるくるいのうちのこゝろ
あるくてゆるのうつ恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

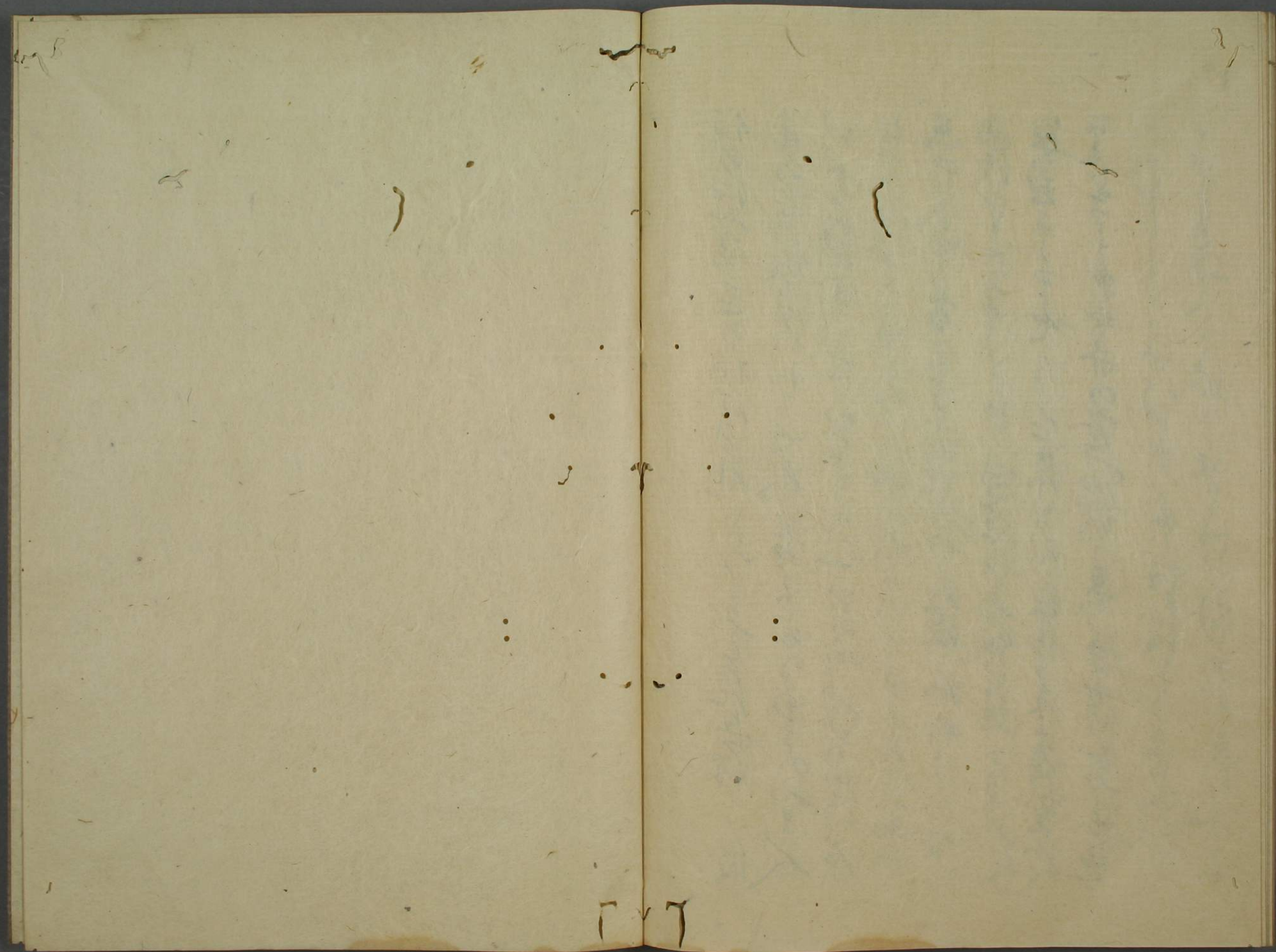
[illegible]

[illegible]

雜十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]